



はじめに

2017年秋、私がアンティークコインの収集と取引を始めてから約4年が経過しました。この間、2600年もの昔から世界各国の各時代に存在した様々なコインに刻まれた歴史とストーリーを学ぶうちに、自然とコインの取引を仲介する人々との出会いが生まれました。そして、その点と点がつながり、線となり、やがてその線が重なり、まるで何かに導かれるように、私はイスラエルに降り立ちました。

「イスラエル」という国名を聞いて、私たち日本人が想像するのは何でしょうか？

この数年メデシアを騒がせたイスラーム過激派組織「イスラム国」の周辺国家というイメージでしょうか。それとも30分に1回犯罪が起きると言われる危険な国というイメージでしょうか。あるいは1948年にユダヤ人によって新しく建国されたものの国際社会的には様々な制約を受けている国というイメージでしょうか？

アンティークコインの取引に携わっているために様々な国を訪れる機会が多い私ですが、イスラエルへの訪問は初めてでした。そして、前述したような私が事前に抱いていたイメージは到着したその日から大きく変わる事となったのです。

テルアビブ（イスラエルの首都を国際社会はテルアビブ、ユダヤ人はエルサレムと主張しています）空港からタクシーに乗って地中海沿いに建てられたホテルに向かいました。気温は30度を超すものの、湿度が低いためにカラッとした気候で、ヤシの木と白い砂浜、近くにはヨットハーバーがあり、海沿いでは多くの人々がジョギングを楽しみ、砂浜では犬が主人とじゃれあい、遠くを見れば美しい女性がヨガをやっています。時差ボケのせいもあってか、「ここはハワイなのか？」と一瞬錯覚してしまうほどの美しい光景でした。

こうしたよい意味での衝撃を受けながら、私はイスラエルという国への第一歩を踏み出しました。

イスラエルという国のストーリーについては本文中で詳しく書いていきますが、私は今回の旅で「世界を牛耳る」と言われるユダヤ人の大富豪であり、同時にイスラエル建国の直接の関係者でもある人物と時間をともにすることができました。

アンティークコインをすでに所有、もしくはコインについてある程度の知識をお持ちの方ならご存知だと思いますが、アンティークコインの種類や歴史について学びを深めていくことは、コインが発行された当時の国王や覇権者の足跡を辿っていくことを意味します。アンティークコインには、市場流通用として実際に使用されていたものと、贈答用の記念品として発行されたものがあります。後者の記念品として発行されたコインやメダルをよく見ていくと、三角

形のマークとその中にデザインされた目のような彫刻を見つけることができます。実に美しいデザインです（元々私はその美しいデザインに惹かれていました）。

その三角形とは、巷で秘密結社と噂される「フリーメイソン」のマークです。なぜ、このフリーメイソンのマークが国家が発行するコインに彫られているのでしょうか？

他にもアンティークコインについて様々なことを辿っていくと、フリーメイソン以外にも、イルミナティ、ロスチャイルド、ユダヤ人などのキーワードが出てきます。

そうです。「いったい、この世界の覇権は誰が握っているのか？ アメリカ？ 中国？ イギリス？」。歴史上、多くの資産家が金融不安や貨幣価値の下落に不安を抱いている中、「貨幣とは、お金とは何なのか？」「そのお金を握っているのは誰なのか？」「彼らはいったい何をしようとしているのか？」「私たち日本人は何を知るべきで、何をすべきなのか？」という疑問とともに湧き上がる好奇心を抑えられず、私はイスラエルという国に降り立ったのです。

「ユダヤ人とは何か？」「日本人と何か関係性があるのか？」

金融、お金、資産というキーワードを考えたときに、「ユダヤ人から我々日本人が学び取れるものは何かないのか？」「この世の中の本質とは何なのか？」という疑問が湧いてきます。

ユダヤ人あるいはロスチャイルドについては陰謀論的な書籍は数多く出ていますが、本書では、筆者の前述のような疑問に対して、「アンティークコイン」という素晴らしく、かつミス

テリアスな「現物資産」に隠された世界（マネー）の表と裏を紐解きつつ、後半ではそのアンティークコインを資産として捉えた場合のその「価値」についてお話していきます。

また、本書はアンティークコインについてすでによくご存知の方、世界史に詳しい方向けというよりは、アンティークコインについて何も知らない、ただ本書のタイトルを見て興味を持ったか、あるいは何らかのきっかけで本書を手にとっていただいた方向けに、金融知識ゼロでも、学生でもわかるような目線で書いています。予めご了承いただければ幸いです。

この4年の間に私の人生観をはじめ、あらゆる価値観を変えた「アンティークコイン」。すでにご存知の箇所があれば読み飛ばしながら読み進めていただきつつ、ご自身の中で何らかの新しい価値観を感じていただけたら、幸いです。



第2章

資産としてのアンティークコインの購入方法

01	話題のアンティークコイン投資の魅力とは？	130
02	「最強の資産」と言われるアンティークコイン投資のメリット	136
03	アンティークコイン投資のデメリット	160
04	なぜ、今注目されているのか!? マーケット規模と今後の予測	171
05	具体的な売買実例とお客様の生の声をご紹介します	176
06	これからのアンティークコイン投資	187



第3章

筆者オススメのアンティークコイン

①	1800年代～1900年代前半の大英帝国時代の イギリス国王の記念金貨（5ポンド金貨）シリーズ	197
・	1826年 ジョージ4世 5ポンドブルーフ金貨	

・ 1839年	ヴィクトリア女王	5ポンドプルーフ金貨	200
・ 1887年	ヴィクトリア女王	5ポンドプルーフ金貨	202
・ 1893年	ヴィクトリア女王	5ポンドプルーフ金貨	204
・ 1902年	エドワード7世	5ポンドプルーフ金貨	208
・ 1911年	ジョージ5世	5ポンドプルーフ金貨	210
・ 1937年	ジョージ6世	5ポンドプルーフ金貨	212

② 1600年代後半から1700年代前半の5ギニー金貨シリーズ

・ チャールズ2世	5ギニー金貨	214
・ ジェームス2世	5ギニー金貨	216
・ ウィリアム&メアリー	5ギニー金貨	218
・ ウィリアム3世	5ギニー金貨	220
・ アン女王	5ギニー金貨	222
・ ジョージ1世	5ギニー金貨	224
・ ジョージ2世	5ギニー金貨	226

おわりに 228

参考文献 233

〈カラー〉ユニバーサルコイン スペシャルコレクション 237

装丁&カラーページデザイン 小松学 (ZUGA)

本文デザイン&図表作成 中西啓一 (panix)

本文DTP 横内俊彦

写真提供 Getty Images、永竹弘幸 (ACT4)